

4. 日中戦争と中華人民共和国の成立

b. 日中戦争とアジア太平洋戦争の発生

①1937年7月7日 [1 盧溝橋] 事件発生→[2 日中] 戦争へ突入
→日本政府、戦線を拡大→12月 [3 南京虐殺] 事件発生

②西安事件をきっかけに国民党と共産党の接近すすむ
→1937年9月[4 第2次国共合作] 実現=共産党軍は「八路軍」「新四軍」として編成替

③国民政府…[5 アメリカ] [6 イギリス] などの援助のもと、徹底抗戦
→武漢から[7 重慶] へ都を移す
戦争指導の方法や指導者の腐敗によってしだいに国民の支持を失う

④毛沢東 = 「8 持久戦 」 論を唱え、農村を拠点ゲリラ戦をすすめる
→解放区の拡大 = 小作農に土地解放をおこない支持を拡大。
この過程での毛沢東の権力集中すすむ

⑤日本 1940 東亜新秩序建設を掲げ、南京に[9 汪兆銘] 親日政権を樹立→国民の支持得られず

⑥中国の激しい抵抗 (=すべての中国人が敵!!) の前に「点と線」の支配にとどまる
→「10 三光 」 作戦 (「奪い尽くし、焼き尽くし、殺しつくす」) など残虐な作戦を実施

抗日戦で、毛沢東は「11持久戦」論を唱え、農村を拠点としたゲリラ戦をすすめる、国民政府も首都を[12 重慶]へ移し、アメリカなどの援助も受けながら徹底抗戦をつづけた。この結果、日本軍は「点と線」の支配にとどまった。また[13東亜新秩序]を唱え、国民党の有力者[14 汪兆銘]に親日政権を樹立させたが国民の支持は全く得られず、日本軍はしだいにおいつめられた。なお、日本の対米英戦争開始後も、中国では激しい戦闘がつづき、戦争終了時においても日本陸軍の半数近くは中国戦線にいた。とくに[15 共産党]勢力が小作農と結び抗日戦をすすめる影響力は農村部に深く浸透した。こうした動きは[16 地主]を基盤とする国民政府との対立をすすめるものであった。

⑦日本…中国の抵抗を押さえるために、米・英からの援助ルート(援蒋ルート)を断つことをめざす

↓
⑧1939・9 [17 第二次世界大戦] 発生
→1940、ドイツ[18 フランス] を占領→ヨーロッパ大陸支配へ
親独政権(ヴィシー政権) 成立
1940フランスの敗戦をきっかけに[19 仏領インドシナ] (ヴェトナム) 北部に進駐(1941 南部にも)
米英の中国への補給路と見なす
ドイツ・イタリアと[20 日独伊三国] 同盟を締結=ファシズム陣営に参加

↓
⑨アメリカ・イギリス等…態度を硬化→[21 石油禁輸] の実施 (=いわゆる「[22ABCD] ライン」)
とくに石油不足に
1941アメリカ→日本の中国・「満州」からの撤退を求める最後通牒 ([23ハル=ノート]) 提出

⑩1941.12 日本軍の[24 ハワイ真珠湾] 攻撃などをきっかけに[25 アジア太平洋] 戦争勃発
→戦争は、中国との戦争から、東南アジア・太平洋地域全体へ拡大
しかし陸軍兵力の40%以上は中国戦線に投入され続ける

日中戦争に勝利できない日本は、ヨーロッパにおいて[26 第二次世界大戦] が発生しドイツが優勢に戦争を進めるのをみて[27日独伊三国同盟] を締結、フランスの降伏をきっかけに[28 北部仏領インドシナ] へ進駐、つづいて南部にも進駐、自らの植民地支配の危機を感じた[29 アメリカ] ・イギリスとの対立をいっそうすすめる、ついに1941年12月8日、日本軍の[30 ハワイ真珠湾] 攻撃をきっかけに太平洋戦争が発生した。

c. 中華人民共和国の成立

①日本の劣勢→敗北([31 1945年 8月 15日])
しだいに国民政府と共産党の対立表面化

②1946年[32 国共内戦] の再開→共産党、一時延安を失う
アメリカ…国民政府を支援を強化←ソ連=[33 共産主義] 陣営との対立 ([34 冷戦]) 激化
→国民党幹部の腐敗の激化 東西対立
[35 ソ連] →国民政府との間で中ソ友好条約締結→共産党の孤立化
日本の利権のソ連継承をめざす

③毛沢東「36 新民主主義」論を発表=幅広い統一戦線の実現を主張、[37土地改革] の実施
→反地主闘争強化
1947年～共産党軍 ([38人民解放] 軍) 一斉反撃→1949年 北京占領

④1949年10月1日[39 中華人民共和国] 建国を宣言 (主席[40 毛沢東] 首相[41周恩来])

⑤1950 [42土地改革] 法公布=農民に土地を分配、企業の国有化をすすめる
→宋以来の[43 地主] による支配体制の完全崩壊
1950 [44 中ソ友好同盟相互援助条約] を調印、共産主義 ([45 東側]) 陣営に参加

⑥中華民国政府 (主席[46 蔣介石]) →[47 台湾] に逃れる 大陸反抗を主張、「二つの中国」へ

[48 1945] 年8月、日本が降伏するとそれまで協力して日本と戦っていた[49 国民] 政府と共産党の対立は激化、1946年には再び[50 国共内戦] が勃発した。冷戦の進行でアメリカは国民党への支援をつよめ、ソ連も国民政府と中ソ友好条約締結するなど共産党は孤立化を余儀なくされ、一時は拠点であった延安を失うにいたった。しかし国民政府は政府内の腐敗などで、国民の支持を急速に失ない、共産党では、毛沢東「51新民主主義」論を発表し、幅広い統一戦線の実現を主張、抗日戦の過程で[52 農民] に支持を広げた農民だけでなく広い支持を得るようになっていった。こうして1947年、人民解放軍は一斉反撃をはじめ、1949年には北京を占領、10月1日北京天安門上において[53 中華人民共和国] 建国が宣言され、主席には[54 毛沢東]、首相には[55 周恩来] が選出された。これに対し、中国大陸を追われた国民政府 (中華民国政府) は[56 蔣介石] 総統)のもと、日本から奪い返した[57 台湾] に逃れ、大陸反攻を唱えていく。こうして「[58 二つの中国]」がうまれることになる。